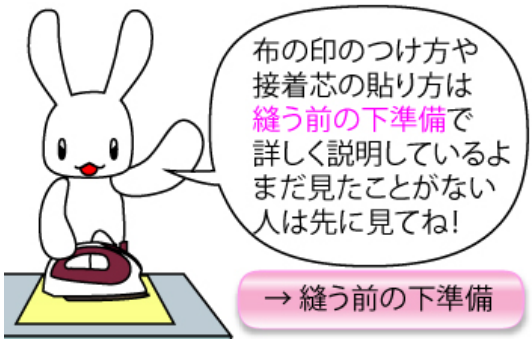
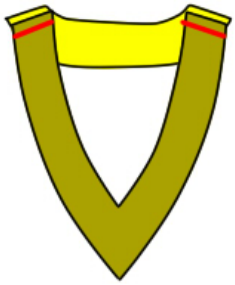


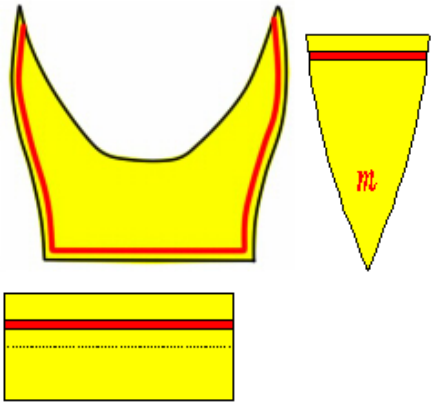
表　裏　接着芯

裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。
型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。
お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。

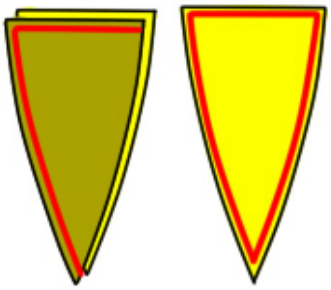


見返しを表同士が内側になるように重ねてください。
肩を1cm幅で縫ってください
縫い代は左右に折ってください

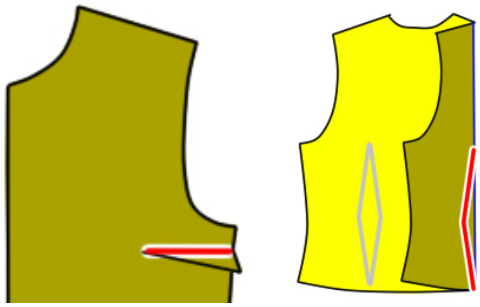
←洋裁用語で割るといいます。



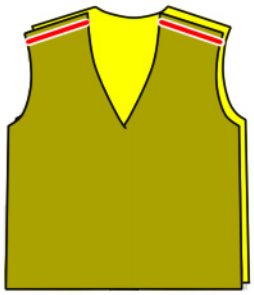
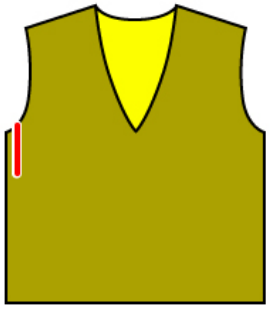
お好みでえりや、胸元の三角の部分とそでぐちにラインや柄などを入れてください。
アイロンでくっつく熱接着の両面テープを使うとゆがみにくいです。
（あくまで仮止めとして使い、ミシンで縫いとめてください）

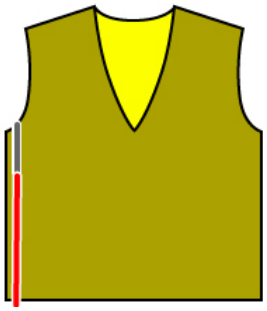


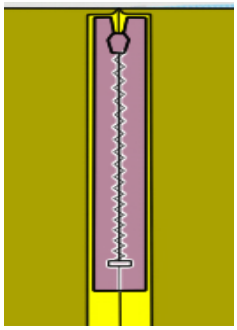
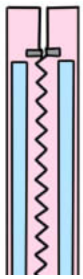
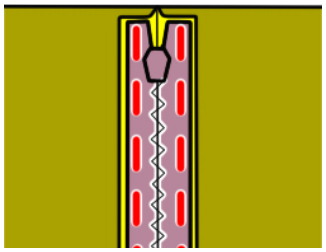
2枚を表同士が内側になるように重ねてください。
上と横2箇所を1cm幅で縫ってください。
スナップボタンをつけないほうはひっくり返すため縫いません。
表にひっくりかえして端から5mmの所を縫ってください。

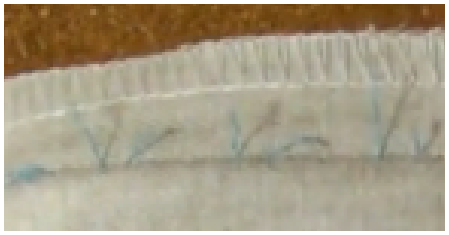
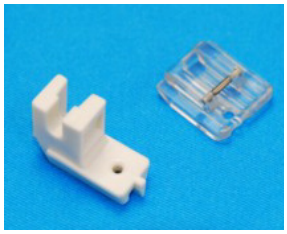
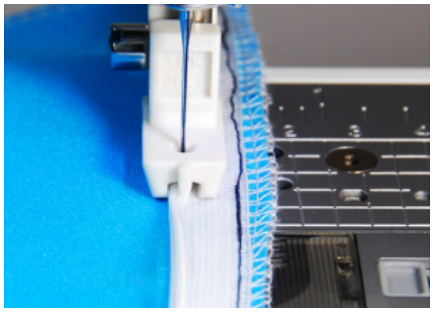
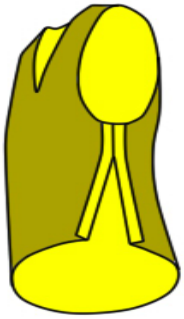
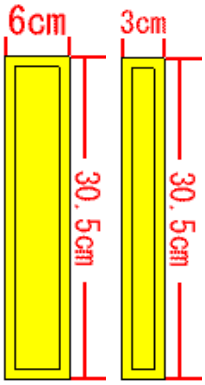


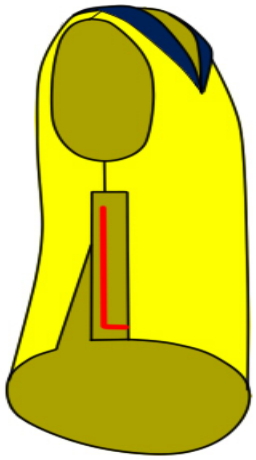
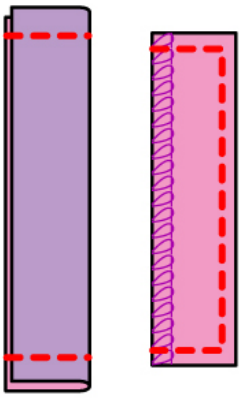
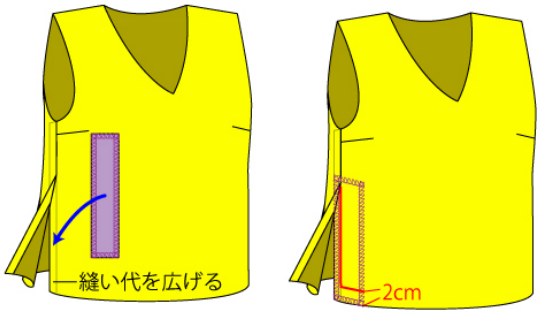
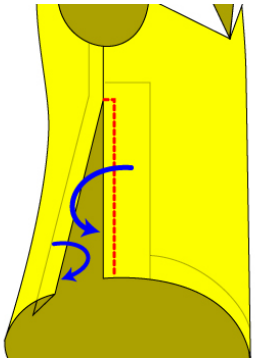
ダーツ(立体にする為のつまみ)を縫ってください。
つまむ場所を内側が表になるように半分に折って、縫ってください。

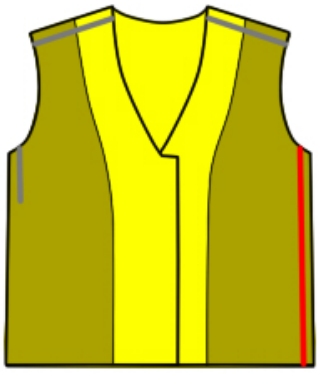
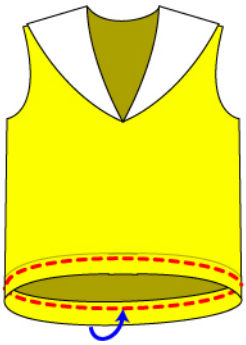
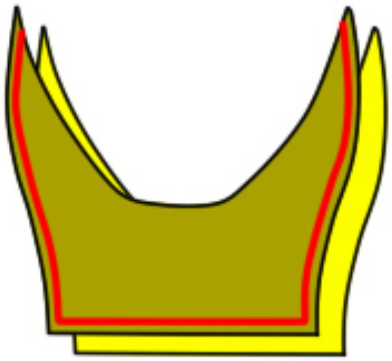
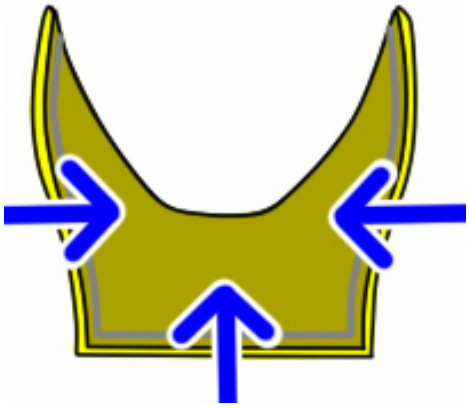
<table>
<tr><td>  </td><td>
身頃を表同士が内側になるように重ねて肩を1cm幅で縫ってください。
縫い代は左右に広げてください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">脇をファスナー開きにする場合</td></tr>
<tr><td>  </td><td>
脇を縫ってください。赤いところ。

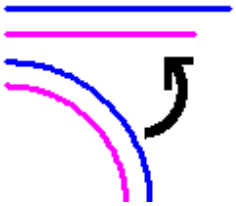
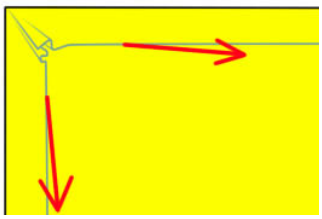
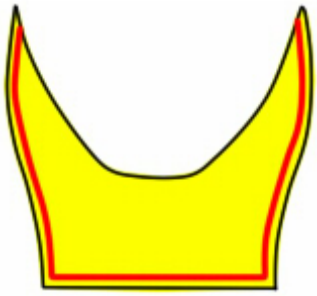
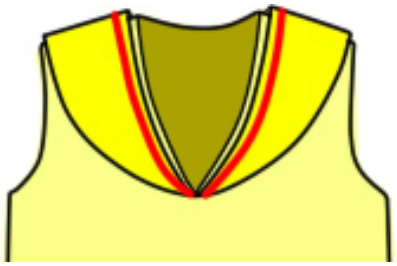
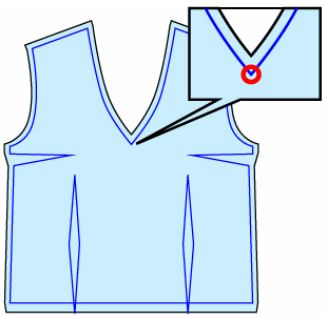
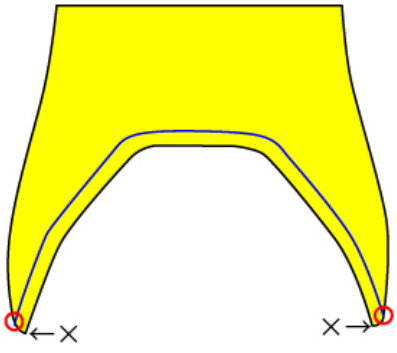
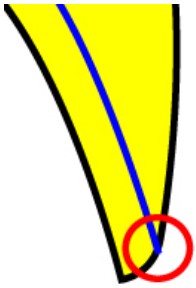
利き手のほうの脇を上4cmほど(ファスナーどまりのところまで)1.5cm幅で縫ってください。</td></tr>
<tr><td> 
 </td><td>
この部分はあとでほどくので、ミシンの縫い目の長さを長くしてください。
脇のファスナーの印をつけたところすそまでの縫い代を1.5cm幅で縫ってください。
これを縫わないと、縫いなれていない人は、境目が縫いずれて左の図のようになってしまうので注意。

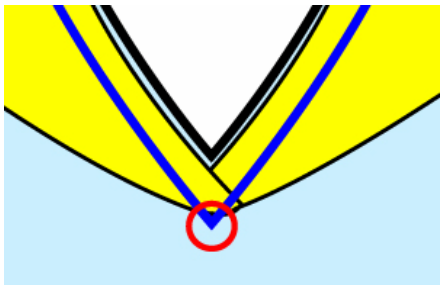
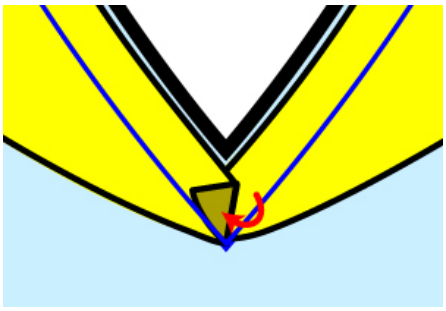
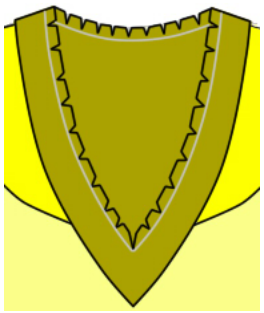
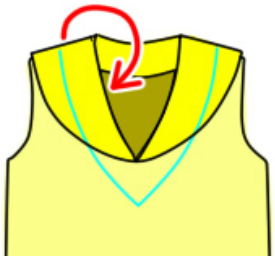
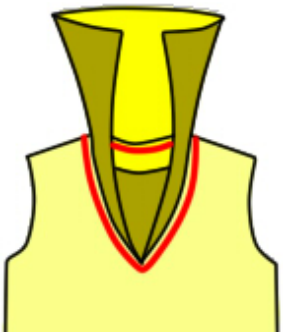
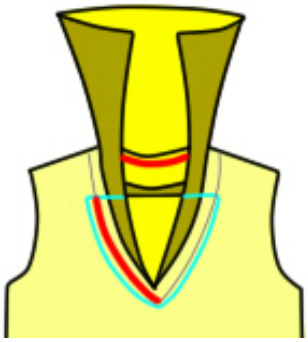
脇を縫ったら、縫い目の長さを戻し、アイロンで縫い代を左右に広げてください。</td></tr>
<tr><td>  </td><td> 
あれば熱接着の両面テープをファスナーの表面に貼ってください。
裏を上にして生地を置いてください。
熱接着の両面テープのはくり紙をはがしてください。
縫い代の上に、裏を上にしたファスナーを置く。
アイロンで固定してください。</td></tr>
<tr><td>  </td><td>熱接着の両面テープが無い場合
なければ手縫いで2cmくらいの大きい縫い目でしつけ糸でファスナーと、縫い代だけを開きどまりの所まで大雑把に縫ってください。</td></tr>
</table>

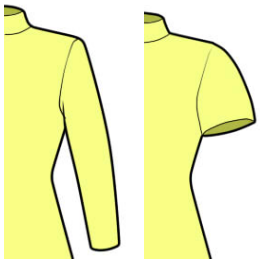
	 糸きりハサミやリッパーでファスナーをつける部分の糸をほどいてください。
	ミシンの押さえをコンシールファスナー押さえに替えてください。 このコンシールファスナー押さえは一般的な家庭用ミシンであれば数百円で購入ができます。 最近は付属のものもあります。 お洋服を作る人は1つ持っておくと便利ですよ。 左側は軸から替えるタイプ、右は後のボタン押して押さえを交換するタイプ用 コンシールファスナー押さえはこのように裏側に溝が入っています。
	この溝にファスナーのムシ（レール部分）を入れて縫うと、ファスナーのムシのそばギリギリを縫うことができます そして開きどまりまで縫ってください。 これでファスナー付け完了です。
脇をスナップ開きにする場合	
	ファスナーをつけない場合。 持ち出しをつけてください。 アイロンで縫い代を左右に折ってください。
	ファスナーをつけない場合は持ち出しと見返しを作ってください 小さな単なる四角形なので、接着芯を貼った布に直接布に線を引いて書いた方がゆがまず早く作れます。 3cm幅が見返し 6cm幅が持ち出し

	見返しを前見頃に縫ってください。 あきどまり（脇の開いた所の端）から下に向かってLの字に縫ってください （脇側は1cm、すその縫い代は2cmなので注意！）
	持ち出しを裏が見えるように縦半分に折って、上下1.5cmのところを縫ってください。 表側にひっくり返してください。 端から5mmの所を一周縫ってください。
	見返しと身頃を表側同士が内側になるように重ねてください。 端から1cmのところを縫ってください。 すそは2cmの所を縫ってください。
	見返しを裏側に折ってください。 端から5mmのところを縫ってください 後の脇の縫い代も後ろ側に折って折り目をつけてください。
↑スナップ開きはここまで↑	

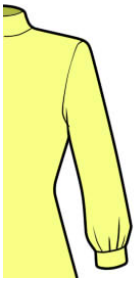
	ファスナーやスナップ開きではない脇は普通に上から下まで縫ってください。 縫い代は左右に広げてください。
	すそを2cm裏側へ折って、1.5cmの所を縫ってください。
	セーラーカラー同士を表同士が内側になるようにに重ねて回りを縫ってください。
	このとき図のように「表に見えるほうのえり」を2～3mm内側にずらしてまち針をさし、しわが入らないように、注意してにして縫ってください。

<table>
<tr>
<td> </td>
<td>上記のように表を少し中に入れ込む理由。
えりは実際に人間が服を着たとき、首周りのカーブと肩のカーブにそっています。
 
外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。
なのでその分を補うために2～3mm表になるほう（外側に折り返すほう）を内側に入れ込んで、長さを調節しているのです。
これをしないと一番下のえりのようにに引きつってえりの先がぴょこっとあがってしまうので注意が必要です。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>えりの角など表側にひっくり返したときに、きれいに角が出ない場合中で縫い代がグチャグチャになっている場合が多いので、指を中に入れて、縫い代を角と反対側に軽く引っ張ってあげると中の縫い代が整って、角が出しやすくなります</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>
表に返して、端から5mmくらいの所を縫ってください。
あまり布のギリギリを縫いすぎると、ミシンの針穴にえりの先が食い込むので注意！！</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>
表にした身頃にえりを表にして重ね、端から5mmくらいの所を縫ってください。</td>
</tr>
<tr>
<td>  </td>
<td>えりの先を合わせるのは端ではなく出来上がり線のところです
   </td>
</tr>
</table>

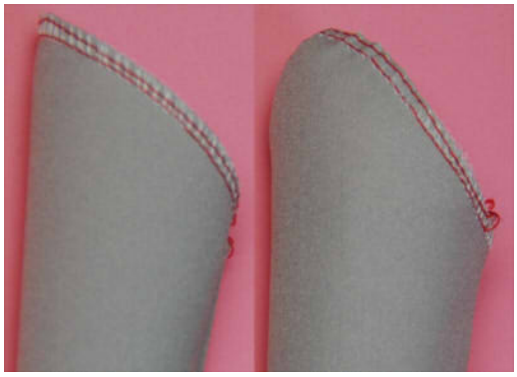
	 えりの出来上がり線の端がえりくびの出来上がり線の角に来るように合わせてください えりの先が縫い目にかかりそうなときは図のように折ってよけてください。
	見返しを裏が上になるように重ねてください。 えりぐりを縫ってください。
	えりの縫い代に縫い目を切らないように切込みを入れてください  見返しだけ内側に入れてください
	セーラーカラーを避けて見返しと身頃に固定してください。 えりくびの縫い目から5mmの所を縫ってください。
	えりを避けたまま前あきの三角の布を下に重ねてください。 片側だけ縫い付けてください。 （三角の布は先に裏表縫い合わせてあると仮定しています） 縫い付けなかった方にスナップボタンをつけてください。



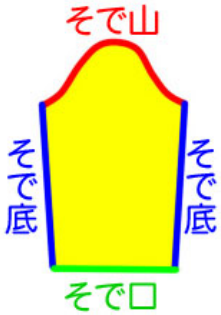
↓基本的なそで、はんそでの縫い方はそのまま下へ↓

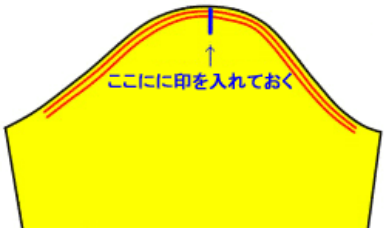


そでをつけてください。
自分の作りたいデザインの縫い方を選んでください。
カフスのあるシャツそでの縫い方は下にあります

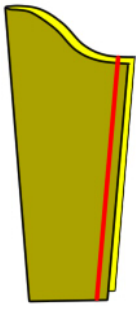


またそで山の高い細身のそではそのままつけると左の写真のように体に添わない形になるので、そでぐりより長くし、ギャザーを入れることによって丸みを出して立体的になるように作られているものもあります
こうやって比較を見ると、ギャザーを入れる意味が分かっていただけると思います。

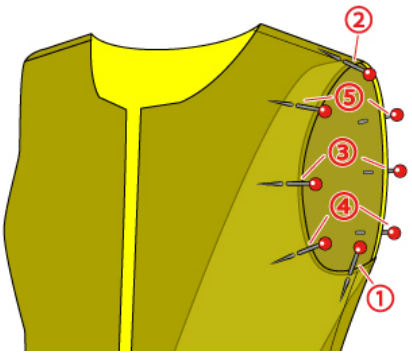




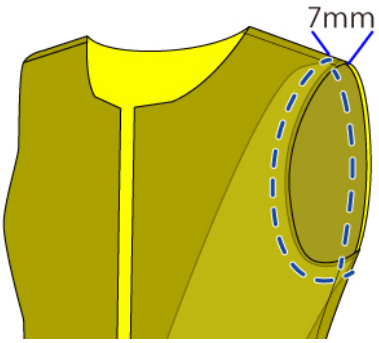
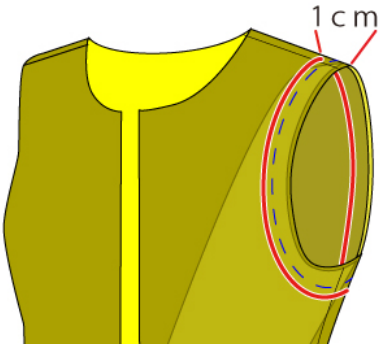
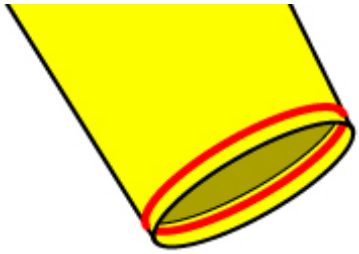
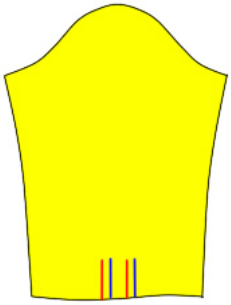
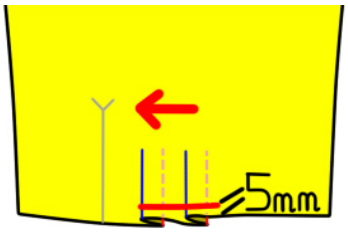
そでの山に2本ギャザーをよせてください

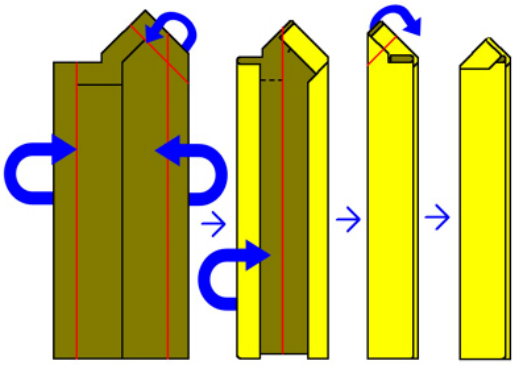


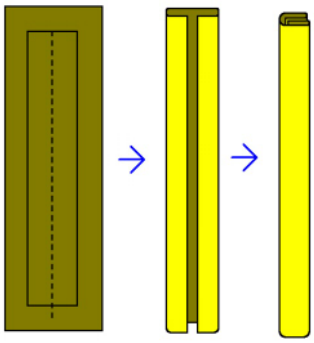
表が内側になるように半分に折ってください。
1cm幅で縫ってください



そでは表側が見えるようにひっくり返してください。
裏返したままの身頃の中にそでを入れてください。
脇→肩→印という順に待ち針を刺してください。
そでの山のギャザーの糸を引っ張って長さを調整してください

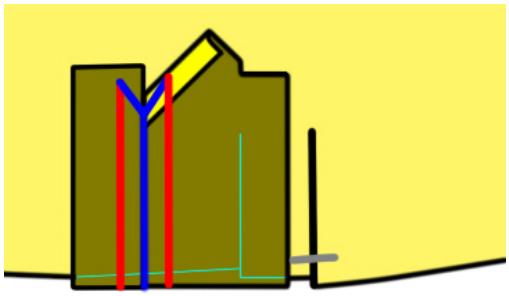
	手縫いで端から7mmくらいのところを縫ってください 縫ったら待ち針ははずしてください。 全部を手縫いで作る場合はここは省略してください
	端から1cmの所を縫ってください。 縫い終わったら仕付け糸ははずしてください
	 試着してそでの長さを確認してください。 問題がない場合 アイロンでそで口を2cm裏へ折って下さい。 1．5cmのところを縫ってください。 多少の調整は中に折る縫い代の幅を増減して調整してください
カフスつきのそでの縫い方	
 	そで口のタック（つまみ）を縫います あきの方へダックを倒します。 図では青が山折り 赤が谷折り タックが取れないように5mmの所を縫っておきます



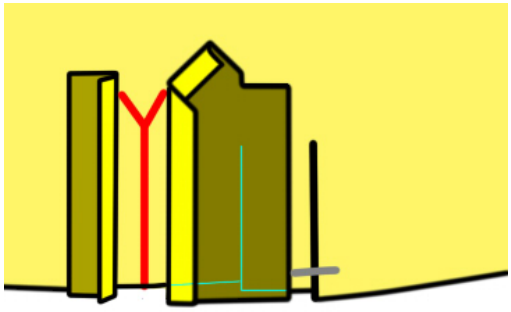


そでの持ち出しをアイロンで折り目をつける

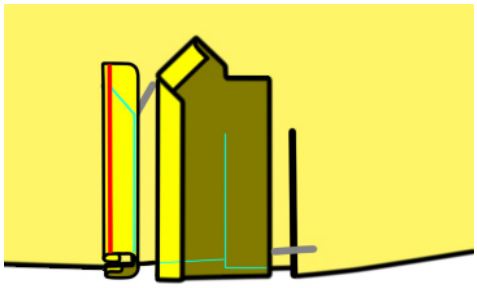
小さいほうの持ち出しは両端を折ってください。

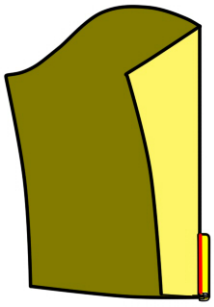


そでのあき（着替えやすくするためのスリット）に持ち出しを付けてください。
タック側に大きいほう
反対側に小さいほうの持ち出しを縫ってください。



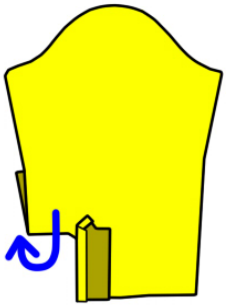
縫い代をよけて、図のように切り込みを入れてください。
持ち出しを切らないように注意

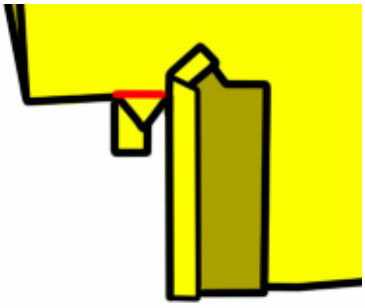




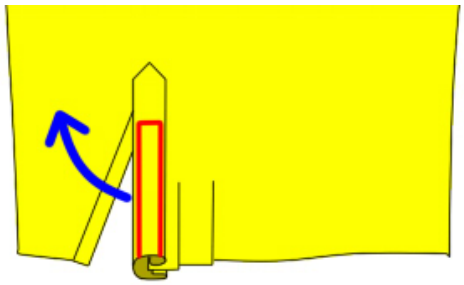
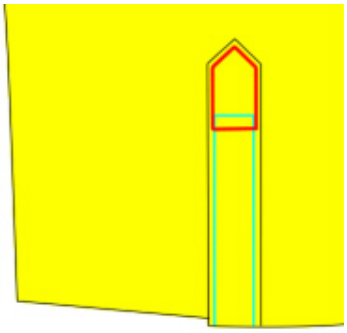
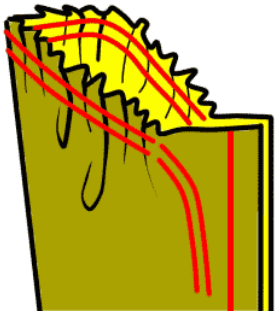
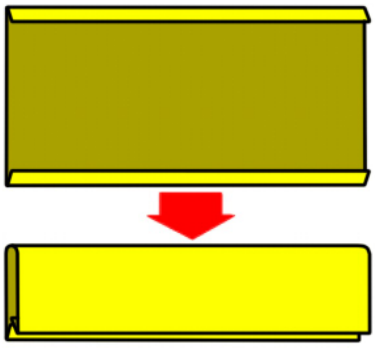
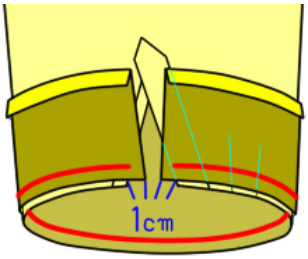
小さいほうの持ち出しで切り込みを入れた所を2～3mmの幅で縫って包んでください

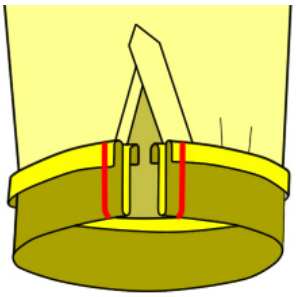
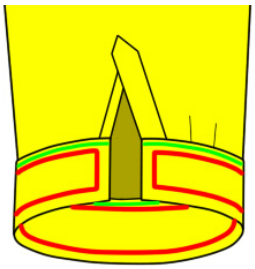
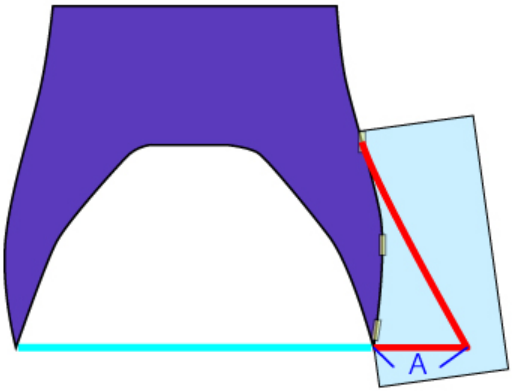
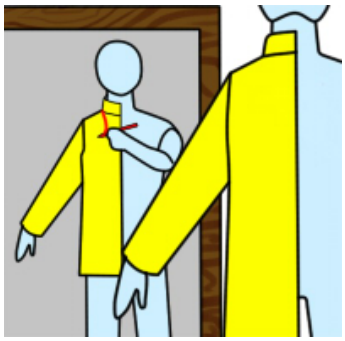
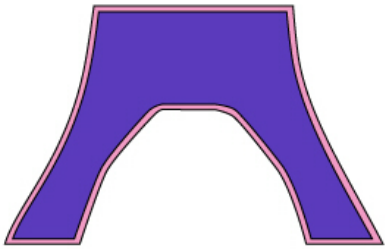
←このように折ると端まで縫えます。

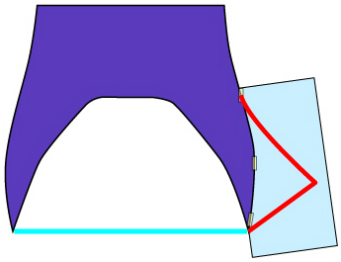
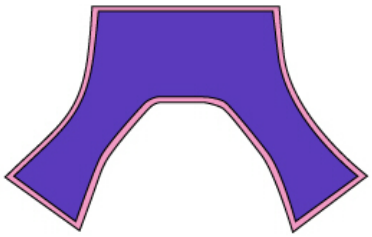




小さい持ち出しの方を上に折って下さい。
切り込みの三角に飛び出た部分と小さい持ち出しを縫ってください。

	大きいほうの持ち出しで切り込みを入れた所を包んでください。 小さい持ち出しをよけて図のように端から2～3mm幅で縫ってください
	持ち出しを自然に重なるように整え、上の部分を端から2～3mm幅で縫ってください。
	そでの山にギャザーを寄せてください。 そで底を1cm幅で縫ってください。
	カフスの縫い代をアイロンで1cm幅に折ってください。
	表同士が内側になるように、そで口とカフスを重ねてください。 持ち出しから1cmずつカフスの縫い代がはみ出すように重ねてください。 1cm幅で縫ってください。

	アイロンで折った真ん中の折り目と逆向きに折り返してください。 両端1cmを縫ってください。
	カフスを表側にかえしてください。 端から2mm（黄緑の線）の所を手縫いでしつけ（仮止め）してください。 5mmの所（赤い線）をミシンで縫ってください。 ボタンホールをあけてボタンを付けてください。 もしくはスナップボタンを付けてください。
	胴体に付ける縫い方は基本的なそで（上のそでの縫い方）と同じです
えりの改造方法	
	 セーラーカラーの型紙にテープで紙を貼ってください。 Aの幅は型紙を体に当てて鏡を見ながら決めてください。 ※縫い代は省略しています。  改造したら縫い代をつけてください。
	襟先を結んだ線を延長して、襟を広げると図のようになります。 ※型紙によっては角度が変わることもあります。

<table>
<tr><td> </td><td>えりの先の角度を変えたい場合</td></tr>
<tr><td>  </td><td> 
紙を足して外側に上がるように線を引くと実際のえりの先も上がります。改造したら縫い代をつけてください</td></tr>
</table>

必要な道具

- □ 表生地
- □ 26ｃｍ以上のコンシールファスナー
- □ スナップボタン３つ　脇をスナップ開きにする場合は+2～3個
- □ 接着芯
- □ 生地にあった色の糸
- □ お好みでセーラーテープもしくはバイアステープ

この衣装に適した生地
ツイル・ギャバなどの普通地～中厚地が適しています。

素材は綿・ポリエステル（混紡）ウールなど。

ポリエステルツイル　化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。しわになりにくいです。
初心者にも扱いやすい生地です。
綿 ツイル　ポリエステルツイルに比べ、柔らかいですが、出来上がった服を着て長い時間座ったりするとシワが入ります。
扱いやすい生地です。